

R5新しい取り組みまとめ（テーマ・項目ごと）

	課題・問題	新たに組みたい事項	事業の規模感等
・情報発信	若い世代に対して、観光コンテンツや特産品振興イベント、文化施設等での催し物や展覧会等についての情報が十分に届いていないため、情報発信を強化する必要がある。	県内大学生等が観光や特産品、文化イベントを体験し、それについて投稿し、投稿の拡散によって、消費拡大を図るために、情報発信プラットフォームを構築する。	学生の体験や投稿を促すために、優秀投稿を表彰するコンテストを実施する。当プラットフォームの認知度向上のために、SEO対策やハッシュタグ対策等を実施する。
	人口の社会増対応	香川県以外での香川県の魅力発信	香川県には魅力的なコンテンツや魅力的な企業があるが県内外にその情報が発信されていない。メディアやSNS等で積極的に情報を発信していく仕掛けを検討していきたい。
	アフターコロナにおける新たな関係人口事業の検討について	関係案内所（特に空海弘法大師1250年にあたる年になるので、様々なイベントを企画しているので、そういったところを案内してほしい。また、四国遍路の世界遺産登録への取組みとしても発信したい） 大学教員等による講座をアンテナショップ的に開催し、できれば大学等での社会人聴講生に繋げたり、学生との交流を図ったりする場の提供を行う。聴講生から香川の良さが学生に伝われば若者定着の期待もできる。	あくまで学生の学びの場でありながら企業とも連携した具体的実現可能な取組みを行いたい。
・講座開催、交流会・イベント開催、郷土愛醸成	高齢化社会 生涯学習	大学教員等による講座をアンテナショップ的に開催し、できれば大学等での社会人聴講生に繋げたり、学生との交流を図ったりする場の提供を行う。聴講生から香川の良さが学生に伝われば若者定着の期待もできる。	県内高等教育機関がすべて参加し、各3～5講座程度を担当する。受講者からは千円程度参加料を徴収し、講師には謝金を支払う。
	地域の高等教育機関で学ぶ若手人材が、講義を通じて産学官民の連携により協働活動を行う資質を身に着ける機会を設ける。	講義科目「地域学」の新規開講	学内学生の教育に限定、今のところ、地元の宇多津町と三豊地区での活動例について学ぶ。
	地元へ帰ってくる学生（Uターン）が少ない。	地元の高校等を訪問し、地元の魅力等をPRし、郷土愛をはぐくむとともに、地元の企業説明会を高校で開催し、地元の企業を知ってもらうことで、地元へのUターンを増やす。	高校と協議をし、2時間程度時間をとってもらい、50分単位で、生徒の選択制で、2つの地元企業の説明会に参加する。 企業説明会は数年前に琴平高校で実施した実績がある。
	移住・定住人口の増加	大学進学で香川を離れる生徒が多いことから地元高校生への啓発と、せとうち留学の促進による関係人口及び定住人口の増加を目指す	県と市町が連携して高校への啓発及び誘致活動を実施
	香川県の大学・企業での人口減少時代への備え	大学、企業支援がテーマの勉強会（例えば、以下の様なテーマ）・地域の魅力ある企業情報の（学生就活やライフイベント時の）更なる効果的発信　・高校生の大学進学率向上　・大学の、未来に繋げる研究に対する支援　・産業界の後継、技術者不足　・外国のハイクラス人材確保　・人口論に依存しない地域活性化　・移住の取組みの、他県との差別化　・地元密着企業の起業支援　・副業支援　・社員の住環境支援（社宅整備支援等）　・産業活動と付加価値づくり　・成長産業への転嫁支援　・女性が働きやすい社風づくり	部会の内容の再定義や、認識と目標のシェアなどにつながる勉強会的なもの。
	地域課題の解決や新たな産業・事業の創出を図るために、産学官の連携を強化する必要がある。	県内企業、県内大学等の研究者、行政との間の産学官連携に向けた交流会やマッチング商談会の開催	経済団体や大学等を通じて集まった、産学官連携に関心を持つ企業や研究者、行政が一堂に会して、人脈形成や今後の事業展開に向けた協議を行う。
	○学生が県内の中小企業を知らない⇒就職しない ○県内の中小企業が学生を知らない⇒採用できない ○地域活性化は中小企業が担っている⇒人材が不足している ○企業の存続を含めて学生を県内の中小企業へ就職させることが喫緊の課題である	○県内の中小企業と学生の協働による小規模イベント（産直市、工場見学、作業現場見学等）の開催	○市町単位で1年間で2回程度実施（夏休み1回、春休み1回程度か） ○高松市、坂出市、三木町、綾川町は地元企業と香川大学 ○東かがわ市は地元企業と高松大学及び高松短期大学 ○さぬき市及び島嶼部は地元企業と徳島文理大学 ○宇多津町は地元企業と香川短期大学 ○丸亀市、善通寺市、多度津町、琴平町、まんのう町は地元企業と四国学院大学 ○三豊市及び観音寺市は全大学
・連携強化、関係構築	市町間をまたぐ交流人口	イベントの共催	近隣市町と共同で香川県を知ってもらうためのイベントの開催
	自治体が個別に抱える課題・問題を共有できておらず、プラットフォームとしての機能を活かせていない。	自治体ごとに個別に抱えている課題・懸案事項で「大学・地域共創プラットフォーム香川」の目的に沿うものをプラットフォーム内で共有し、その解決や協力が望める大学とのマッチングを行うことで、少しでもその解決に向けて進めることも必要ではないか。	小規模
	社会的課題の解決	大学も含めた民間の研究機関等との連携により、現在の様々な社会的課題の行政的解決手法を調査研究する	現在の取組の延長線上になるかもしれないが、社会的課題の行政的解決手法調査研究事業を継続的に実施する
	目に見える連携が少ない	大学スポーツ、プロスポーツ及び地域スポーツの連携	県内の団体で実施
	これからの香川県を担う学生間による関係性構築	PF所属の高等教育機関の学生間による活動	アイデア創出のWSなど
	外部人材の活用	目下の行政課題及び社会課題に対応する外部専門人材のデータベースを構築し、県及び市町で有効活用するスキームづくり	県及び市町の取組に機動的に支援及び連携してくれる外部人材を県下で広域的に活用する
	広域連携の取組	県が中心となって県下各市町との広域連携コーディネート事業を実施	そもそものプラットフォームの役割になるのかもしれないが、プラットフォームで恒常的に連携課題を掘り起こし、県下の市町に対し、連携意向及び手法を調整する
・進め方	現時点では、時間的な制約もある中での活動となるため、既にあるテーマに絞って進めていく方が良いと思う。		
	令和4年度において行っていました現状分析および取り組みを引き続きお願いしたい。		
	既に出ている事業について掘り下げて調査・議論するべきであると考えている。		
	当面進めていくテーマ（※）4項目をブラッシュアップすることにより、補完すべき課題等を明確化していく。	地域が目指すべき姿を具体化して、その持続性を高める方策を立てたうえで、実践に移行する。	
	しばらくは現在進めることとしているテーマについて議論を深めていくべきではないかと考えます。		
	部会委員は各市町とも主に課長級職員により構成されており、複数回開催される部会への参加は困難な場合がある。	担当者会のような形式で担当者レベルでの調整を進め、節目で各課長が参加する部会の開催という運用は考えられないか。	担当者会を設け、さらに部会を開催となると事務作業が煩雑になることも考えられるため、ご意見を伺いたい。
	新たな主体の参画による連携の拡大 （特に企業との新たな連携・取組み）	PFによる成果も大事ではあるが、アイデアソンのような産官学による様々な分野の関係者が集まり、話し合い、アイデアを出し合う機会が創出されていることの意義が大きいかと感じているので、同様の機会を増やし、継続していただきたい。	テーマごとに参加者が変わってもよいので、様々な分野の関係者が集まり、話し合う機会が多く持てるように、規模感は、その都度、柔軟に決定してよいと思う。